

# H28農事メモ(第1号)

平成28年3月5日  
白山石川営農推進協議会  
石川県農業共済組合  
JA松任、JA白山、JAののいち

## 石川米ブランド確立に向けて

### 平成28年度「白山石川グレードアップ米づくり運動」始動

平成28年度から石川県内全域で新たに「うまい・きれい石川米づくり運動（〔10の推進技術〕を基本に〔5つの1か月対策〕を実践し、おいしくてきれいな石川米を食卓へ届けよう。）」を展開します。

〔10の推進技術〕および5つの1か月対策

推進技術	5つの1か月対策	目標
1 播種量		・1箱当たり120g
2 育苗日数	育苗日数1か月以内	・播種から田植えまで1か月以内
3 植付本数		・1株当たり3~4本
4 栽植密度		・1坪当たり60株以上(晩植70株)
5 適正な施肥		・高温登熟に対応した基肥一発施肥への切り替え ・生育状況に応じた追加穂肥の実施
6 田植え時期		・5月田植えの励行
7 中干し・溝切り	中干し開始は、田植え1か月後 中干し期間は、1か月間	・田植え1か月後からの実施 ・中干し期間1か月(コシヒカリ)の遵守
8 除草・防除		・7月上旬までの追加除草 ・水稻の生育ステージにあわせて適期防除の実施
9 水管理	中干し後から出穂まで1か月 出穂から刈取り直前まで1か月	・中干し後から出穂までの約1か月(コシヒカリ)の飽水管理 ・出穂から刈取り直前までの1か月以上の飽水管理
10 刈取時期		・籾の黄化程度に応じた刈取り

白山石川地区は、「白山石川グレードアップ米づくり運動」として、地域の特徴に重点を置いて、歩留まり率の向上による単収確保を目指していきます。

#### 〔白山石川地区の重点項目〕

課題	改善事項	10の推進技術に追加
登熟向上できる適性な穂数への誘導	適正な田植え作業の実施	3cm程度の浅植え
	初期生育確保のための浅水管理	活着後の浅水管理2~3cm
	適正穂数への誘導の早期中干し	
高温登熟対応・収量確保	的確な中間追肥・追加追肥の実施	ケイ酸不足の改善
	登熟期間の適切な水管理	
	適期刈取りの励行	
	安定生産に向けた土づくりの実施	15cm以上の深耕
斑点米被害の防止	早期除草によるカメムシ低減	春先からの除草管理徹底
	薬剤防除の実施	剤型・出穂に応じた防除

## 1 播種の手順

### (1) 浸種

◎浸種積算温度100℃以上を確保し十分に吸水させる

種類	水温10℃	水温15℃
うるち米・酒造好適米	12日	8日
もち米	10日	7日

※発芽揃い向上のため、初日の水温は10~15℃の適温に保つ。

※浸種水量は種籾の2倍以上とし、2日ごとに水を交換する。

但し、最初の2日間は水を交換しない。

※薬剤吹き付け種子の場合は、最初の3日間は水を交換しない。



種子消毒後の廃液は、「イレートキット」等を使用し、適切に処分しましょう

### (2) 催芽

◎ 齊一な出芽に向け芽出しのバラツキを防止する

催芽温度	28℃	30℃	32℃
芽が出るまでの時間	56時間	46時間	39時間
幼根が出るまでの時間	68時間	63時間	51時間

※循環式催芽機を使用する場合はもみ枯細菌病の発生を防止するため、水温が32℃を超えないようにする。



## 2 播種・出芽

### (1) 播種

◎健全苗を育成するための適正播種量

種類	乾籾(1箱当たり)
うるち米・もち米	120g
酒造好適米	150g

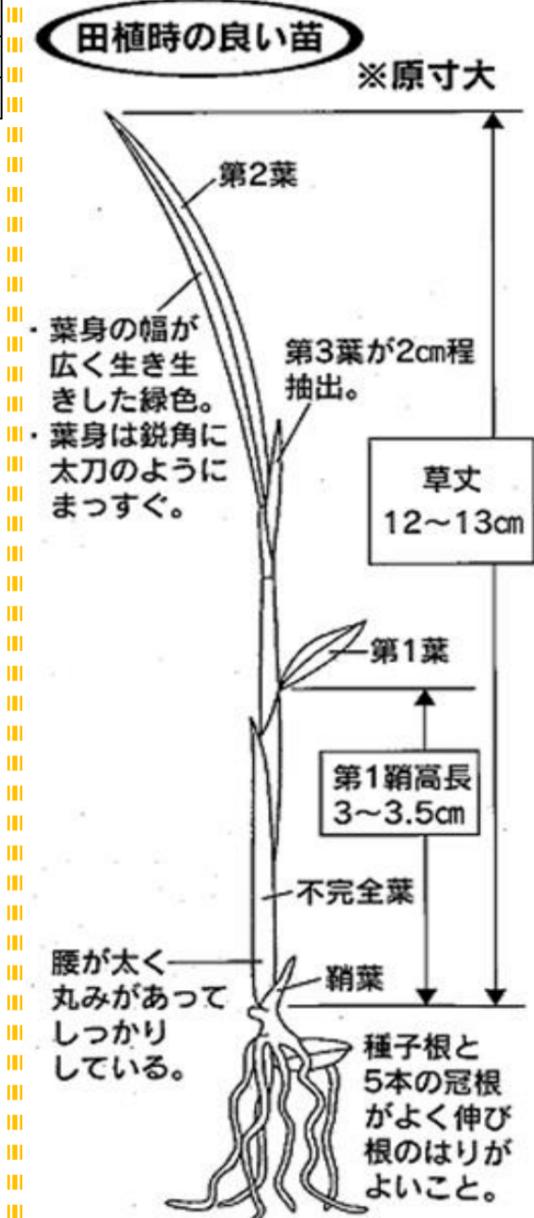
◎高温登熟を避けるため5月田植えに合わせて播種する

育苗等作業	田植時期		
	5/5	5/10	5/15
播種	4/13	4/21	4/28
催芽	4/11	4/19	4/26
育苗日数	23日	20日	18日

### (2) 出芽

◎育苗管理を容易にするため出芽を齊一にする

育苗器内温度	日数	出芽の目安
30~32℃	3日間	芽の長さ 8~10mm

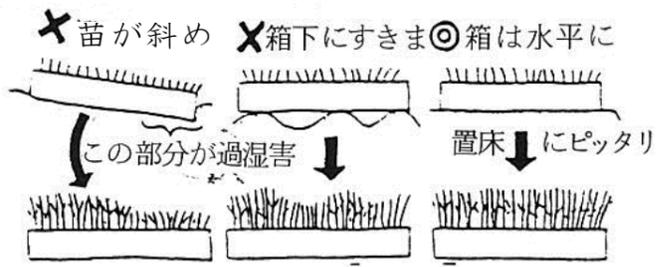


田植時の良い苗 ※原寸大  
・葉身の幅が広く生き生きとした緑色。  
・葉身は鋭角に太刀のようにまっすぐ。  
・第3葉が2cm程抽出。  
・草丈12~13cm

・腰が太く丸みがあってしっかりしている。  
・不完全葉  
・鞘葉  
・種子根と5本の冠根がよく伸び根のはりがよいこと。

# ハウス管理

〈ハウスに苗箱を並べる時のポイント〉  
苗箱を並べる前に確認しましょう！！



## 1. 緑化期

◎苗の素質が決まる時期、保温を第一に

3~5日 緑化

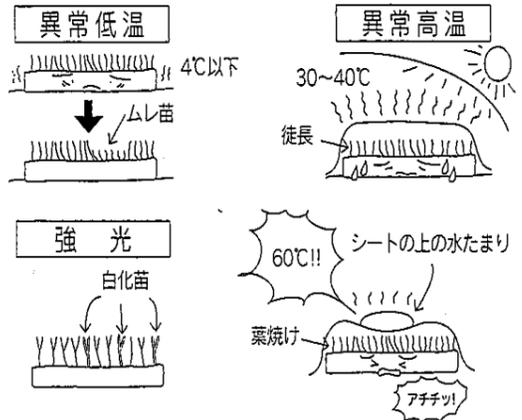
昼間20~25℃  
夜間15~20℃

3~5日被覆 (遮光のため)

(朝7~8時)  
水は土の乾燥をみて → 少し、またはやらない

※出芽直後の白い芽は直射日光に当たると白化するので、寒冷紗等で被覆する。  
※日中25℃以上に上がる場合は換気する。  
※夜温が12℃以下の時は保温する。  
※床土の表面が乾くまで灌水は控える。

〈緑化期に見られる障害の例〉



◎出芽や緑化で芽を伸ばしすぎると腰高の苗となり、徒長しやすくなるので注意!!

## 2. 硬化期

◎きめ細やかな温度管理・水管理で丈夫な苗づくり

硬化初期	硬化中期	硬化後期	温度管理	水管理	留意点
6日	6日	5日	昼間15~20℃ 夜間10~15℃	控え目 (緑化期の延長)	○初・中期 ※早期に冷たい風に当てないように注意する。(夕方3~4時にはハウスを閉める)
			昼間15~20℃ 夜間10~15℃	原則1日1回 (早朝の気温の低い時に)	○中・後期 ※日中の高温に注意し、早朝から換気する。
			外気温にならす		※田植え5~3日前から外気温にならし、極端な低温の恐れのない限り夜間もハウスを開けておく。 ※晴天時は床土が乾きやすいので、土が乾くようならば1日1~2回灌水する。

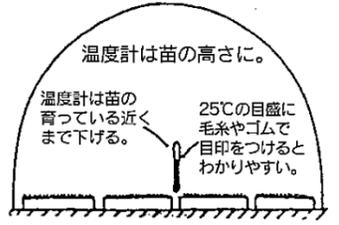
### 育苗のかん水に用水を利用する場合の留意点

降雨日やその翌日など、用水の濁りが強い場合は、用水の使用を控えて下さい。  
※詳しくは農林及びJ Aにお問い合わせ下さい。

### 《温度管理と被覆資材使用の目安》

ステージ	緑化期	硬化初期	硬化中期	硬化後期	注意事項
日数	3~5日間	6日間	6日間	5日間	※育苗日数 20~25日
昼 温度	20~25℃	15~20℃	15~20℃	外気温	※緑化期は30℃ 硬化期は25℃ 以上にしない。
昼 被覆資材	○	△	×	×	※最低8℃以下にしない。
夜 温度	15~20℃	10~15℃	10~15℃	外気温	
夜 被覆資材	○	△	×	×	

(注) ○は常時必要、△は状況に応じて必要、×は不要。



## 本田準備

### (1) 畦からの漏水や地下浸透による水流出の防止

- ①畦めりや代かきを丁寧に行い、漏水や地下浸透による水の流出防止に努める。
- ②特に大麦・大豆跡の水田は、漏水しやすくなっているため、丁寧に作業を行う。
- ③大切な資源の水を無駄遣いしないよう、水漏れの無いほ場に仕上げる。

### (2) 水稻根域を確保する耕起の目安は深さ15cm

- ①ロータリ耕の作業速度を落とし作土深を確保する。
- ②乾いた状態で耕起する(過湿状態では耕深が浅くなりやすい)。
- ③耕起前に高い所から低い所に土を運び高低差を修正しておく。



### (3) 土づくり

- ①深耕のほか、土づくり肥料を活用して継続的に土づくりを行う。
- ②土づくりにより水田の基礎体力を向上し生育後半の登熟低下に備える

### 作業のポイントのチェック!!

- 床土のpHは適正ですか？
- 浸種初日の水温を10~15℃に保ちましたか？
- 5月田植えとなる播種時期ですか？
- 播種量は120gですか？
- 1坪当たり60株以上となる計画ですか？
- 育苗ハウスの温度は適正に保てましたか？
- 耕起は目標15cmにできましたか？

### 10の推進技術についての追記(早期優良茎確保)

1. 播種量：県内で植えられている水稻苗は通常、稚苗で葉齢は2~2.2、草丈は12~13cm程度で田植えされます。基本技術120g播きは、育苗期間中の日照と湿度が良好となるように決められました。多く播きすぎると日照不足で苗が徒長し、混み合うため湿度が高くなり病気が発生しやすくなります。
2. 育苗日数：通常、籾の養分は葉齢2.5葉までに消費されますが、高温状況下で育てると早く消費されます。種播きから25日程度で2.5葉に達するので1カ月を過ぎると籾の養分は無くなり、次いで苗箱の肥料も消費し尽し老化します。また、籾の養分は田植え後の稲の活着に有利です。

★過度な疎植は避け、地力・生育量を考慮した株数を!!